

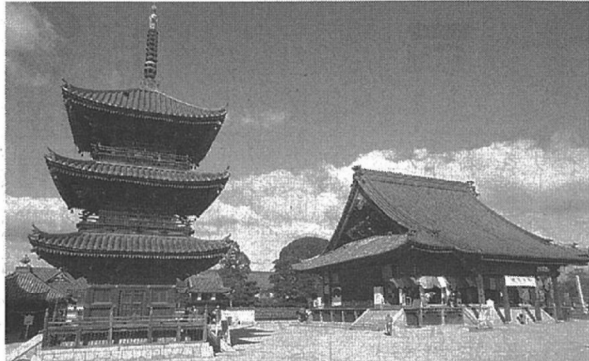
～文化的歴史的所産を巡る～

残したい情景

第41回 岡山県岡山市



一般財団法人 日本不動産研究所



日本三大奇祭である西大寺会陽(裸祭り)が毎年2月に西大寺観音院で行われる

JR岡山駅からは赤穂線を利用して20分程度、岡山市中心部から東方へ約10分の位置に西大寺地区がある。西大寺地区のシンボルと言えば、裸衆(裸の男たち)が宝木(し

んぎ)を奪い合うという日本三大奇祭の一つで、毎年2月に西大寺観音院で行われる西大寺会陽(裸祭り)である。西大寺は、元々は犀の角を戴き鎮めた地に建立されたことから「犀戴寺(さいだいじ)」と呼ばれていたが、後に後鳥羽上皇から「西大寺」という名前を賜り今に至っている。

門前町として発展

西大寺地区は、江戸時代には西大寺観音院の門前町として発展した。また、西大寺地



昭和初期に建てられた10軒程度の看板建築が今も残り、映画やドラマなどの撮影にも使われる



看板建築が建ち並ぶ五福通り

町を挙げて魅力を発信

区の東側には吉井川が流れるため高瀬船による上流地域との貿易で発展した地域でもある。明治以降は門前町の商店街が大きく発展し、周辺の経済の中心として賑わいを見せた。西大寺観音院の境内から少し北に歩くと、通称「五福通り」が現れる。五福

通りは五福とは、人生の五福(幸福、すなわち、寿(寿命)の長いこと)、富(財力の豊かなこと)、康寧(無病なこと)、好徳(徳を好むこと)、終年(天命をもって終わること)のこと。裸祭りで裸衆が奪い合う宝木はこの五福を授ける意味で与えられたことから、この通りが五福通りと呼ばれるようになったと言われている。五福通りは商業のための主要道路として使用され、明治時代には主に正面に軒を出した町家と呼ばれる建

り、昭和ノスタルジーを感じ取ることができる。印象的な町並み故に映画やドラマの撮影にも使われることがある。昭和30年代の東京の下町を舞台に繰り広げられる家族愛や地域コミュニティを温かく描いた映画「ALW AYS 三丁目の夕日」シリーズの撮影も行われている。

古き良き昭和の香り

五福通りを歩くと、直ぐさま映画の世界に入り込んだような感覚を覚え、駄菓子を手手に元氣一杯に走り回る子供達の情景が目につく(伊藤雅人)

味溢れる人々の話し声や笑い声が聞こえてくるようである。この空間にいるだけで何だか懐かしく心落ち着くようである。古き良き昭和の香りを残す町並みは、歴史的価値だけではなく人々の心を和ませる何かを持ち合わせているのかもしれない。

五福通りでは、建物の老朽化や後継者不在、空き店舗等の問題を抱えている。問題解決のために地域を挙げて町の魅力を発信するイベントが行われており、新たに新店舗も増え始めている。このような取り組みや新たな試みにより町の魅力をこれまで以上に発信し、将来に渡りこの特徴ある町並みを維持することを切に願うばかりである。(岡山支所/不動産鑑定士・伊藤雅人)